

1944年東南海地震による静岡県西部地域の軍需工場の被害

静岡県立磐田南高等学校* 青島 晃

土屋光永†・野嶋宏二‡・松井孝友§

Damage of munitions factories by the Tonankai Earthquake (1944),
Western region of Shizuoka Prefecture, Japan

Akira AOSHIMA

Shizuoka Prefectural Iwata Minami High School, 3084, Mitsuke, Iwata City, Shizuoka, 438-8686 Japan

Mitsuhisa TSUCHIYA

Naka-ku, Hamamatsu City, Shizuoka, 432-8017 Japan

Koji NOJIMA

Higashi-ku, Hamamatsu City, Shizuoka, 435-0004 Japan

Takatomo MATSUI

Iwata City, Shizuoka, 438-0055 Japan

Damage of the munitions factories in western Shizuoka Prefecture by the Showa Tonankai Earthquake was researched from literature kept in public libraries and public offices. According to the literature, 59 factories were damaged, 154 houses were completely collapsed, 82 houses were partially collapsed, 45 people died, and damage estimate were more than 29,429,200 yen at the price of the time. Especially, the factory of Koito Airlines Corporation (Morita-cho), Nitto Airlines Hamamatsu Plant (Morita-cho), Nakajima Aircraft Miyatake factory (Miyatake-cho) and Japan Musical Instrument Tenryu Factory (Iida-son) sustained severe damage. The cause of the damage would be the lack of metallic material for constructive reinforcement that was used for a war. Amplification of seismic ground motion for the soft ground foundation would also one of the causes. Recovery work was advanced rapidly, but due to the lack of materials, it became clear that it was impossible to recover the factories up to the original.

Keywords: Tonankai Earthquake (1944), munitions factory, earthquake disaster in Shizuoka prefecture, wartime disaster.

§ 1. はじめに

1944年東南海地震(M7.9)は、南海トラフで発生した最新の巨大地震である。しかし、当時は戦下であったために報道管制が敷かれており、被害について十分に調査されなかった。戦後、飯田(1985)や武村・虎谷(2015)などにより、残された資料が整理され、

1000人を超える死者などや、大庭(1957)や著者ら(鈴木ほか,1982;青島ほか,1994)により、静岡県西部の詳細な被害が明らかにされた。これらの震災の特徴として、愛知県下では軍需工場の被害が大変大きく、死者も多数あったことが指摘されている(武村・虎谷,2015)。

* 〒438-8686 静岡県磐田市見付 3084
電子メール: aoshima.akira@gmail.com

† 〒432-8017 静岡県浜松市中区
電子メール: gff03637@nifty.com

‡ 〒435-0004 静岡県浜松市東区
電子メール: nojima-k1130@qc.commufa.jp

§ 〒438-0055 静岡県磐田市

しかし、静岡県西部地域について、大庭(1957)は家屋被害の統計と地盤との関係については詳細にまとめたが、工場被害については明らかにしなかった。また、静岡県西部の軍需工場の被害は、著者らが断片的に指摘したに過ぎない(青島ほか,1994;青島,1995)。そこで、特に軍需工場の被害に着目して、今まで整理されていなかった統計や資料をまとめることを試みた。すると、これらの資料を収集整理している過程で、多くの工場被害を記録した文書や写真を発見した。これらは、いずれも浜松市を中心とした軍需工場のものであった。本論文では、発見した資料や写真も用いて、旧浜松市を含めた静岡県西部地域全体の軍需工場の被害を報告する。

§2. 方法

調査地域は図1のとおり浜松市を中心とした静岡県西部地域である。方法は主に静岡県西部地方の公立図書館や役所に保管されている保存文書をもとに調べた。特に図2の浜松市立中央図書館に保管されていた「震災被害状況書類」(浜松警察署,1944)は当時の浜松警察署がとりまとめたもので、地震当日から約1カ月間の工場や学校などの被害の報告が、克明に記録されており、重要な資料となった。また、各事業所の社史や沿革史も参考にした。さらに、現在も存続している工場には、直接出向いて体験者に体験談を伺った。

§3. 被害の統計

地震当時、浜松市には工場は紡織、製材木工製造関係を中心に3,185箇所(昭和17年度統計による)あったが、いずれの工場も戦時中であつたために、飛行機や弾丸などの生産にかかわっていた。これらの工場の多くが地震によって倒壊した。浜松市周辺の推定震度は、家屋の倒壊率や被害状況から推定すると、およそ震度5弱～6強であつたと推定される。

表1はこれらの軍需工場の被害の一覧である。それぞれの位置を図3に示す。当時の浜松警察署に報告のあつた63工場の内、被害を受けた工場は59工場に及んだ。これらの被害状況は全壊棟数154棟、全壊坪数53,620坪、半壊棟数82棟、半壊坪数7,992坪、死者45名、重傷者79名、軽傷者153名、損害見積は当時の金額で29,429,200円以上である。

飯田(1985)によれば、今回検討した地域の死者は60人に達した。著者らの調査により、そのうちの45人すなわち75%が軍需工場での死者である。一方、

武村・虎谷(2015)によると、軍需工場が集中していた愛知県半田市や名古屋市南区の死者は両地区を合わせると279人で、これは愛知県全体の死者数435人の実に64%にあたる。また、市町村別の死者数では、多い方からそれぞれ1位と3位である。以上から愛知県下のみならず、静岡県でも1944年東南海地震において、軍需工場での犠牲者が極めて多いことが指摘できる。

なお、浜松警察署の事務官が、地震7日後の12月13日に内務省警保局長にあてた浜松署管内の被害報告は、「震災被害状況書類」(浜松警察署,1944)によると次のとおりである。

「工場に於ける被害にして最も大なるは小糸航空株式会社にして目下の処復旧の見込み立たず。中島飛行機工場の被害又大にして工場の約八割破壊せられて居り目下中部第七九部隊兵員約三〇〇名出動取片附中なり。また、日本楽器天竜工場(航空部品制作)の被害も甚大にして前記第七九部隊兵員約一〇〇名出動応急復旧中なり。小糸航空、遠州製機、鈴木織機、天竜兵器等の各工場は目下工員のみにて瓦の取除等簡易なる作業を実施中にして大なる復旧作業に両三日中より実施の予定なり。各工場共工員多数且志気旺盛にして目下の所取片附には他の応援を要せざるもの如し。」(「震災被害状況書類」(浜松警察署,1944))

これらの文書や一覧表からも分かるとおり、特に大きな被害を受けた工場は、小糸航空株式会社(森田町,表1の20)、日東航空浜松製作所(森田町,表1の19)、中島飛行機宮竹工場(宮竹町,表1の3)、日本楽器天竜工場(飯田村,表1の43)などである。しかし、被害報告を提出しなかった小さな工場まで含めると、実際にはこれ以上の被害があつたと推定される。

§4. 被害の特徴

4.1 日本楽器株式会社(表1の2, 25, 42, 43, 45, 46, 現ヤマハ株式会社)

当時、本社工場(浜松市中沢町,表1の25)は飛行機のプロペラを製造していた。本社工場は鉄筋コンクリート造りの2～3階建てのビルとレンガ造りの工場、木造工場に分かれていたが、地震によってレンガ造りの鋳物工場が崩壊し、同じレンガ造りの資材倉庫に大亀裂が生じた。工場中央にあつた水槽塔が倒壊し死者1名と数名の負傷者を出した。旋盤を操作中の

動員学徒が、歯車の間に手を挟まれて重傷を負う事故も発生した。また、天竜工場(浜名郡飯田村、表1の43)は全壊した。

4.2 中島飛行機株式会社宮竹工場(表1の3, 現株式会社SUBARU)

大手飛行機メーカーの発動機専門工場として、浜松市宮竹町に敷地 1,485,000m²を確保して昭和 19 年 11 月から建設が開始された。突貫工事によって12月はじめには生産直前にまでこぎつけたが、地震によって工場の全て(5,280m²)が倒壊した。鋸屋根の9棟の巨大工場であったが、バラック式に急造したことや資材不足で柱の数が不足していたことが倒壊の原因と考えられる。倒れる様子を目撃した鶴飼亀吉氏は「バラック建ての工場が、宮竹の田圃を埋めて、1カ月位の間に建てられた。鋸屋根の工場が突如出現したのにもびっくりしたが、12月7日の地震のときは将棋倒しのようにバタバタと倒れ、工場が突如消えてしまったのには、2度びっくりした。」(「写真でみる東南海地震」と語っている。なお、この工場は再建されることなく終戦を迎えた。

4.3 遠州機械株式会社(表1の36, 現エンシュウ株式会社)

当時は手りゅう弾や機関砲弾、工作機械を製造していた。地震によって全壊12棟、半壊6棟の被害を受けた。このなかには弾丸工場、建設中の工作機械工場が含まれていた。地震時の従業員数1,000名以上であったが、そのうち死者3名、負傷者25名が出た。これら死傷者の多くは、浜松市立女学校や西遠学園女学校の学徒挺身隊の女子学生たちであった。また、このとき鋳物工場では火を使っていたが、始末が適切であったため火事は起こらなかった。地震後、東京、神奈川より大工20数名の緊急工作隊が出動し、浜松第二中学校の生徒もこれを手伝った。これにより地震後3週間で復旧し、年末には重要部門の生産が再開できた。図4は遠州機械株式会社(現エンシュウ株式会社)に保管されていた当時の被害写真である。

4.4 鈴木織機株式会社(表1の24, 34, 現スズキ株式会社)

本社工場(浜松市相生町表1の24)は、第2工場と鋳物工場が倒壊した。また、従業員の間には「12月8日の午後にはもっと大きな地震がくる」というデマが工場

内に広がり、パニック状態になった。高塚工場(浜名郡可美村)では、鋸屋根の兵器生産工場3棟が倒壊し死者5名が出た。亡くなった従業員は空襲と間違えて機械の下に隠れたためであったといわれる。こうち学徒挺身隊の誠心女学校生徒3名が圧死した。地震後、東京、神奈川の大工や鳶職が緊急工作隊として出動し復旧作業にあたった。

§5. 被害の原因

浜松商工会議所(1971)によると、工場倒壊の原因について、当時の遠州機械株式会社の元取締役安田元三氏は次の3点を指摘した。

- (1) 生産工場にはベルト掛けの機械が多く、天井に伝動用メインシャフトが通っており、上部が重たかった。
- (2) 当時、鉄鋼が不足しており、金属の供出により柱と棟を結ぶ補強鉄材が撤去された。なお、補強鉄材を残しておいた織機ショールームだけは、倒れなかった。
- (3) 照明の関係から東西に長い工場が多く、南北の揺れに弱かったため、将棋倒しに倒れた。

上記のとおり、被害の原因は、主に戦時下での物資不足による建築構造上の弱さである。また、被害と地盤との関係を考えて、三方原台地のような洪積台地には被害はなく、ほとんどが沖積平野で発生した被害である。特に大きな被害を受けた小糸航器工業浜松工場(浜松市森田町、表1の20)、日東航空浜松製作所(浜松市森田町、表1の19)の地盤は、遠州灘に平行して並ぶ砂堤列間の堤間湿地の東に位置し、有機質の泥炭層、シルトや粘土層が厚く堆積している地域である。また、中島飛行機宮竹工場の地盤は、水田の埋め立て地である。日本楽器天竜工場は、天竜川をつくる扇状地平野の旧河道に沿う後背湿地に建てられた工場である。いずれも上層に泥層が厚く堆積した軟弱地盤に工場が建てられていたために、地震動が増幅されたものと考えられる。さらに、中島飛行機宮竹工場(浜松市宮竹町、表1の3)では付近の井戸から泥水が吹き出したという証言があり、液状化現象が発生したことが、被害を大きくした原因と予想される。

§6. 復旧の経過

復旧は戦時下であったため、兵器生産の至上命令のもとで急ピッチに進められた。東京や神奈川の大工や鳶職人が緊急工作隊として多数駆けつけた。ま

た、当時の三方原飛行隊や高射砲学校、中部第 130 部隊、第 79 部隊、陸軍病院などの軍隊からも復旧作業にあたった。また、日本楽器製造株式会社は、家屋被害の大きかった旧袋井町周辺の従業員に対して 12 月 15 日付で袋井町長あてに次の要旨の文書を送っている。「袋井町では家屋の被害が大きく片付けも大変かもしれないが、まず工場の軍需品生産を最優先させて従業員の欠勤のないように格別の配慮をしてもらいたい」。このように当時は地震で倒れた家屋の片付けよりも、兵器生産を最優先させる時代であった。

図 5, 6 は代表的な 8 つの軍需工場の復旧の経過を知るために、「震災被害状況書類」(浜松警察署, 1944)に掲載されている「出勤率」「生産率」「復旧率」「片付け率」「操業率」を示したものである。出勤率(図 5(a))は地震前日と比べて地震発生 25 日目の 12 月 31 日には、ほぼ元にもどっているが、生産率(図 5(b)), 復旧率(図 5(c))とも回復はしていない。地震発生後 5 日目の 12 月 11 日から 17 日にかけての片付け率(図 6(a))は順調に伸びているが、操業率(図 6(b))は変化がなくほぼ横ばい状態である。特に日東航空浜松製作所や中島飛行機宮竹工場のように、この地震で生産不可能となり、その後の操業さえも打ち切ってしまった工場もある。このように、東南海地震は浜松市を中心とした軍需工場に壊滅的な打撃を与えた。

§7. まとめ

- (1) 東南海地震による現浜松市を中心とした地域の軍需工場の全体の被害は、被害工場数 59 工場、全壊棟数 154 棟、全壊坪数 53,620 坪、半壊棟数 82 棟、半壊坪数 7,992 坪、死者 45 名、重傷者 79 名、軽傷者 153 名、損害見積は当時の金額で 29,429,200 円以上である。
- (2) 死者の 45 名は、浜松市全体の死者の 75%にあたる。これは愛知県の軍需工場が集中していた地域の 64%に近いことから、愛知県のみならず、静岡県でも、軍需工場の犠牲者が極めて多い。
- (3) 特に大きな被害を受けた工場は、小糸航空株式会社(現浜松市中区森田町)、日東航空浜松製作所(現浜松市中区森田町)、中島飛行機宮竹工場(現浜松市東区宮竹町)、日本楽器天竜工場(現浜松市東区飯田町)である。
- (4) 被害の原因は、戦争による建築補強用金属資材の供出や不足などの建築構造上の欠陥と、工

場の立地する軟弱地盤による地震動の増幅が考えられる。これらの地域はいずれも天竜川低地の旧河道に沿う後背湿地や遠州灘に沿う古砂堤列の堤間湿地である。

- (5) 復旧作業は急ピッチですすすめられた。しかし、資材不足から現状復帰までには至らなかった。

謝辞

歴史地震研究会の匿名の査読者からは適切なコメントを頂きました。また、この研究をすすめるにあたり、エンシュウ株式会社には貴重な被害写真を提供して頂きました。改めて感謝を申し上げます。

対象地震：1944 年東南海地震

文献

- 青島晃・大庭英司・土屋光永・松井孝友, 1994, 写真でみる東南海地震, 静岡県中遠振興センター, 84p.
- 青島晃, 1995, 東南海地震(1944)による浜松市を中心とした軍需工場の被害, 静岡地学, 71, 13-22.
- 飯田汲事, 1985, 昭和 19 年 12 月 7 日東南海地震の震害と震度分布, 飯田汲事教授論文選集 東海地方地震・津波災害誌, 449-570.
- 浜松警察署, 1944, 震災被害状況書類.
- 浜松商工会議所, 1971, 遠州機械金属工場発展史, 1506p.
- 大庭正八, 1957, 1944 年 12 月 7 日東南海地震に見られた遠州地方の家屋被害分布と地盤との関係, 地震研究所叢報, 35, 201-295.
- 鈴木勝良ほか, 1981, 昭和 19 年東南海地震に学ぶ, 静岡県中遠振興センター, 50p.
- 鈴木勝良ほか, 1982, 昭和 19 年東南海地震の記録, 静岡県中遠振興センター, 364p.
- 武村雅之・虎谷健司, 2015, 1944 年東南海地震の広域震度分布の再評価と被害の特徴, 日本地震工学会論文集, 15, 7, 2-21.
- 土屋光永・青島晃・佐伯泰広・松井孝友・野嶋宏二, 1984, 昭和 19 年東南海地震の教訓, 静岡県中遠振興センター, 57p.
- 土屋光永・青島晃・野嶋宏二・松井孝友, 1987, 昭和 19 年東南海地震の体験から, 静岡県中遠振興センター, 60p.

表1. 1944年東南海地震による静岡県西部地域の軍需工場の被害一覧.

Table.1. List of damage for munitions factories in western region of Shizuoka Prefecture by the Tonankai Earthquake (1944).

番号	工場名	重要工場	所在地 (旧市町村名)	所在地 (現市町名)	全壊棟数	全壊坪数	半壊棟数	半壊坪数	死者	重傷	軽傷	損害見積額(千円)	復旧見込	備考	製品	現在名	
1	渥美製作所		浜松市海老塚町	浜松市中区海老塚町	1	80						24.0	3日位で復旧			渥美鉄工	
2	日本楽器海老塚製作所	◎	浜松市海老塚町	浜松市中区海老塚町	7	350					1	9.0	約1週間を要す		航空機部品・武器		
3	中島飛行機宮竹工場	◎	浜松市宮竹町	浜松市東区宮竹町	9	12,900					5	6,630.0	9割破壊にして見込立たず	本道経産局で模倣	飛行機用発動機	トウメン	
4	株式会社城北製作所		浜松市元目町	浜松市中区元目町	4	355	1	45			3	114.0	3ヵ月位の見込				
5	東洋木工株式会社佐藤工場		浜松市佐藤町	浜松市中区佐藤町	1	80						24.0	1週間位の見込		落下タンク	同名	
6	須山光機株式会社		浜松市佐藤町	浜松市中区佐藤町			1	20				3.0	倉庫にして支障なし				
7	樋川機械製作所		浜松市佐藤町	浜松市中区佐藤町	4	90	8	207				58.0	1週間位				
8	石川鉄工所		浜松市砂山町	浜松市中区砂山町												同名	
9	中島航空金属天竜工場		浜松市三島町	浜松市南区三島町	3	2,000	1	300			8	645.0	一週間位の見込		飛行機用発動機	リズム自動車部品	
10	東海精機重工業株式会社		浜松市山下町	浜松市中区山下町	4	100	3	60				39.0	1ヵ月半位の見込				
11	日進機械株式会社		浜松市寺島町	浜松市中区寺島町	1	100	1	150				52.5	約5ヵ月位の見込			同名	
12	加藤鉄工所		浜松市寺島町	浜松市中区寺島町	2	334	1	690			4	203.0	3ヵ月位の見込		航空機部品		
13	大昭高機製作所		浜松市寺島町	浜松市中区寺島町	1	40	2	320				60.0	2ヵ月位の見込				
14	河合楽器本社	◎	浜松市寺島町	浜松市中区寺島町	6	885	1	200			1	1,080.0	3, 4ヵ月を要す		航空機部品	同名	
15	明寿機械株式会社		浜松市助信町	浜松市中区助信町										被害なし		同名	
16	岩井建興工業株式会社		浜松市松江町	浜松市中区松江町	2	7,725											
17	東洋木工株式会社本社		浜松市常盤町	浜松市中区常盤町								1.0	軽微		航空機部品		
18	東海精密木工所		浜松市新津町	浜松市中区新津町	3	54						16.2	新築中のものにして支障なし			同名	
19	日東航空浜松製作所	◎	浜松市森田町	浜松市中区森田町	15	1,500	30	1,000	2	2	16	1,210.0	1ヵ月を要す		戦闘機風防	広海紡績	
20	小糸航器工業浜松工場	◎	浜松市森田町	浜松市中区森田町	4	1,338			9	2	28	1,200.0	1か年を要す				
21	太平興業株式会社		浜松市森田町	浜松市中区森田町	6	360											
22	浜松航空株式会社		浜松市浅田町	浜松市中区浅田町	2	40	3	80				19.5	1ヵ月位の見込		飛行機		
23	中部製絨株式会社		浜松市船越町	浜松市中区船越町	4	580											
24	鈴木織機本社	◎	浜松市相生町	浜松市中区相生町	4	1,600	1	860			3	2,300.0	応急7日完全2ヵ月		手りゅう弾、航空機用推進器		
25	日本楽器本社	◎	浜松市中沢町	浜松市中区中沢町			2	44	1		2	8.0	在座に支障なし、1週間位を以て復旧の見込	練瓦連絡工場全壊半壊は倉庫	プロペラ	ヤマハ	
26	浅野重工業浜松工場		浜松市中島町	浜松市中区中島町										被害なし		住倉電線	
27	園分鉄工所		浜松市中島町	浜松市中区中島町	1	80	1	54				31.5	1ヵ月位の見込			同名	
28	三協機械製作所		浜松市野口町	浜松市中区野口町			1	100				15.0	倉庫にて支障なし			同名	
29	内山機械工作所		浜松市野口町	浜松市中区野口町								0.5	軽微			同名	
30	河合楽器揚子工場	◎	浜松市揚子町	浜松市南区揚子町	3	435	3	600				508.0	約40日を要す				
31	相生製作所		浜松市龍禪寺町	浜松市中区龍禪寺町	2	140						42.0	半月位で復旧			同名	
32	有田鉄工所		浜松市龍禪寺町	浜松市中区龍禪寺町								0.5	軽微				
33	日本銃砲製造株式会社		浜松市龍禪寺町	浜松市中区龍禪寺町								0.5	軽微		銃砲		
34	鈴木織機高塚工場	◎	浜名郡可美村	浜松市南区高塚町	5	3,573	1	756	5	9	9	5,500.0	応急2ヵ月完全4ヵ月		弾丸、機関銃	鈴木自動車	
35	東京無線工業浜松工場	◎	浜名郡可美村	浜松市南区高塚町	3	1,180	2	390			5	1,200.0	操業に支障なし				
36	遠州機械株式会社	◎	浜名郡可美村	浜松市南区高塚町	12	5,832	6	201	3	10	15	2,133.0	1ヵ月を要す				
37	浜松航機工業株式会社		浜名郡篠原村	浜松市西区篠原町	2	500	1	102		1	13		4ヵ月位の見込		飛行機		
38	大東工機株式会社		浜名郡小野口村	浜松市浜北区小松			1	200						新築工場にして支障なし			
39	浜松楽器製造所		浜名郡積志村	浜松市東区積志町										被害なし			
40	中西航空工業		浜名郡中ノ町村	浜松市東区中野町	5	595	1	76					20日位の見込		飛行機		
41	東亜航空浜松工場		浜名郡長上村	浜松市東区市野町			1	120						本道瓦葺平屋型屋根	航空機部品		
42	日本楽器鶴見工場	◎	浜名郡鶴見村	浜松市東区鶴見町	4	337	5	387				290.0	応急2週間完全2ヵ月			ヤマハ	
43	日本楽器天竜工場	◎	浜名郡飯田村	浜松市東区飯田町	5	7,700	1	600	3	3	23	4,450.0	本月中に復旧			ヤマハ	
44	日蓄航空工業	◎	浜名郡舞阪村	浜松市西区舞阪町	2	800					3	1,000.0	操業に支障なし			コロンビア	
45	日本楽器橋羽工場	◎	浜名郡和田村	浜松市東区天竜川町			1	160				2.0	3日間を要す			ヤマハ	
46	日本楽器永田工場	◎	浜名郡和田村	浜松市東区和田町	3	369	1	270	2	1	2	560.0	応急1週間完全2ヵ月(3, 4ヵ月を要す)			ヤマハ	
47	天竜兵器株式会社		浜名郡和田村	浜松市東区和田町					2		1				死亡者は学徒動員		
48	栄ゴム工業株式会社		浜名郡和田村	浜松市東区和田町	1	176	1									同名	
49	天竜製鋸株式会社		浜名郡和田村	浜松市東区天竜川町	3	200										同名	
50	高野精密工業株式会社		浜名郡鷺津町	湖西市鷺津							13			全壊			
51	富士紡鷺津工場		浜名郡鷺津町	湖西市鷺津											コンクリート電製	同名	
52	矢崎電線工業株式会社		浜名郡鷺津町	湖西市鷺津					6						レンジ壁割れ圧死	軍用自動車電線	矢崎部品
53	安藤電気株式会社		浜名郡鷺津町	湖西市鷺津					12	37						同名	
54	裏鷺津の小工場		浜名郡鷺津町	湖西市鷺津	2						11						
55	三和工業天竜工場		不明	不明	2	145										同名	
56	浜名航空工業所		不明	不明	3	93											
57	半場精機株式会社		不明	不明	1	50											
58	丸博飛行機工場		不明	不明	1	100											
59	日本蚕糸浜松工場		不明	不明	1	50											
60	常盤航空工場		不明	不明	1	14											
61	浜名機械株式会社		不明	不明	4	190											
62	大池織布		不明	不明	1	150											
63	大東工業株式会社		不明	不明	4	400											
	計				154	53,620	82	7,992	45	79	153	29,429.2					

(表1の注)

- ① 地震後、かなりの年月を経ているため、不明な数値や内容が多く、これらは空欄で示した。
- ② 工場名は、当時のものである。
- ③ 重要工場とは、「震災被害状況書類」(浜松警察署, 1944)に記載のある軍用物資の生産力が大きい工場である。
- ④ 所在地は、当時の市町村名と現在の市町村名を対照できるように併記した。
- ⑤ 被害見積額は、当時の金額で示した。
- ⑥ 復旧見込みは、1944年12月9日現在のものである。
- ⑦ 現在名は、軍需工場のあった場所に現在建てられている工場の名前を記したが、ほとんどが経営者や組織が変更になっていることに注意を要する。

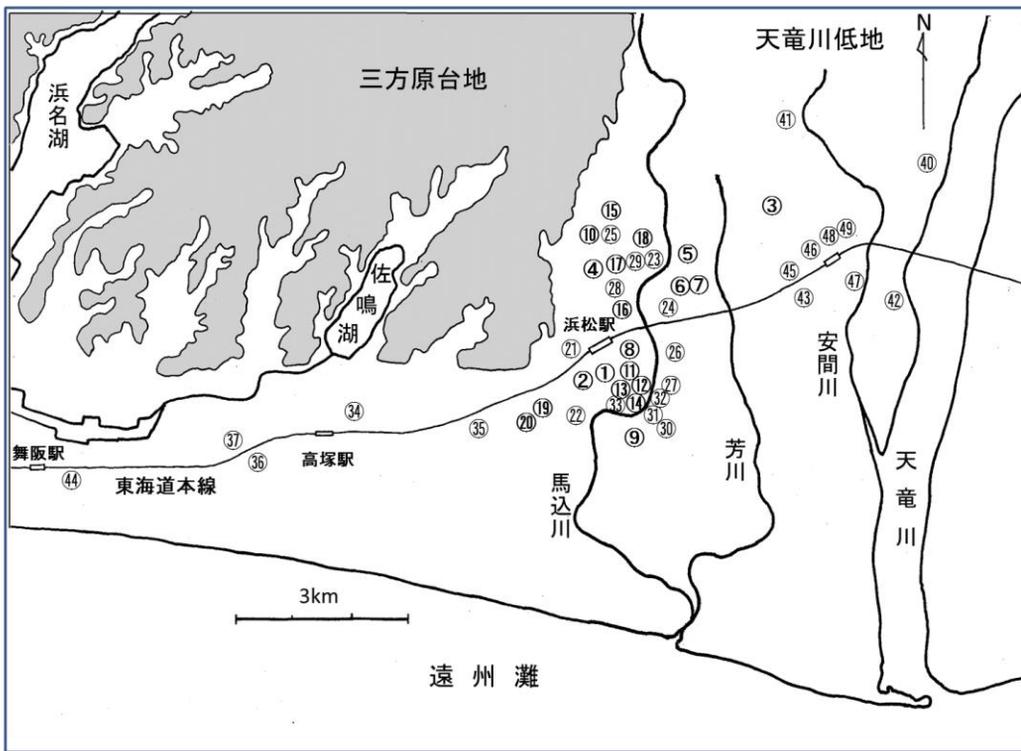


図3. 被害を受けた軍需工場の位置 (番号は表1に対応している. 但し番号50~54は図外の浜名郡鷲津町, 55~63は所在地不明のため記載されていない).

Fig.3. Location of the damaged munitions factory (The number corresponds to Table 1).



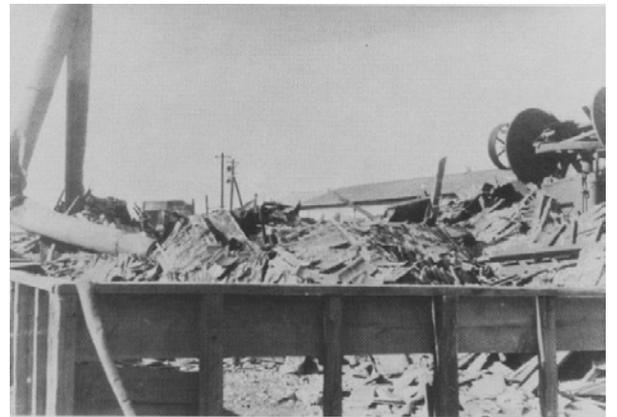
(a)



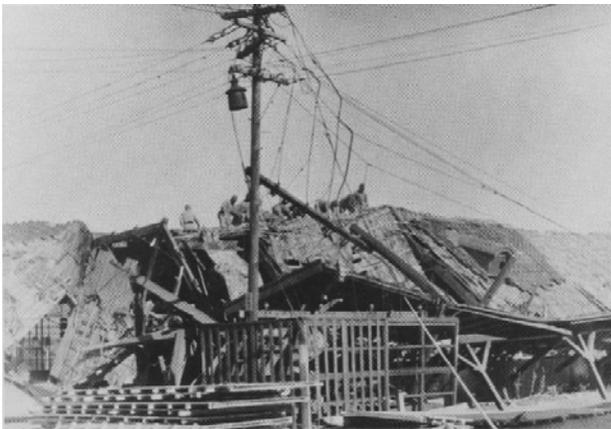
(b)



(c)



(d)



(e)



(f)



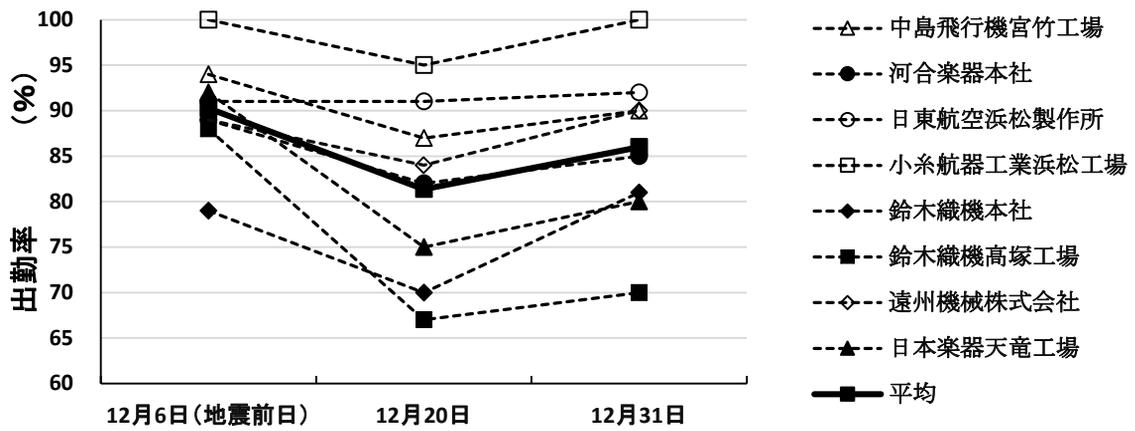
(g)



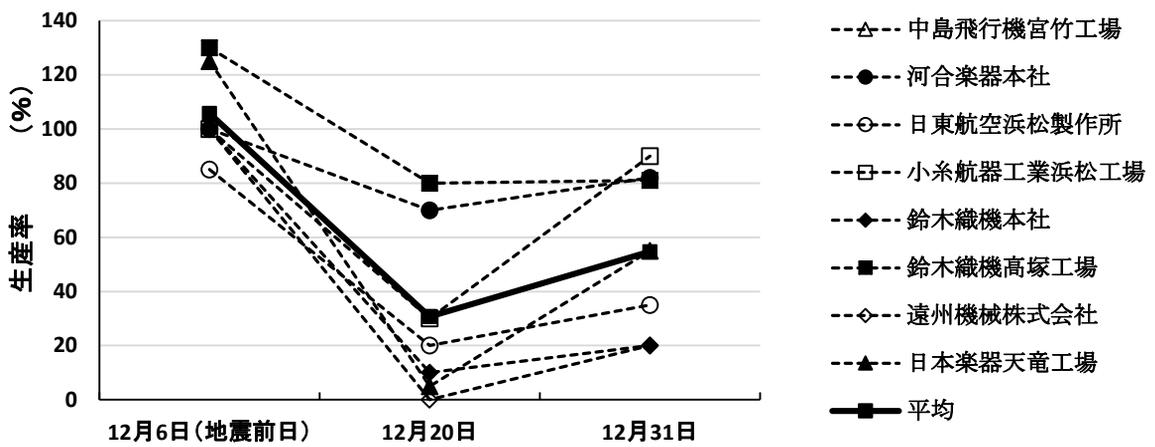
(h)

図4. 遠州機械株式会社(現エンシュウ株式会社)の被害と復旧(撮影,所有者はエンシュウ株式会社).
(a)フライス盤組立工場.元は織機組立工場であったが,軍需工場としてフライス盤組立工場に変更した.(b)弾丸加工工場.(c)鋳物工場.(d)100トンのプレス機械(右上).(e)正門そばにあった弾丸加工工場.
(f)鋳物工場.(g)弾丸加工工場の事務所.(h)フライス組立盤工場の取り壊し作業.完成した旋盤が並んでいることがわかる.

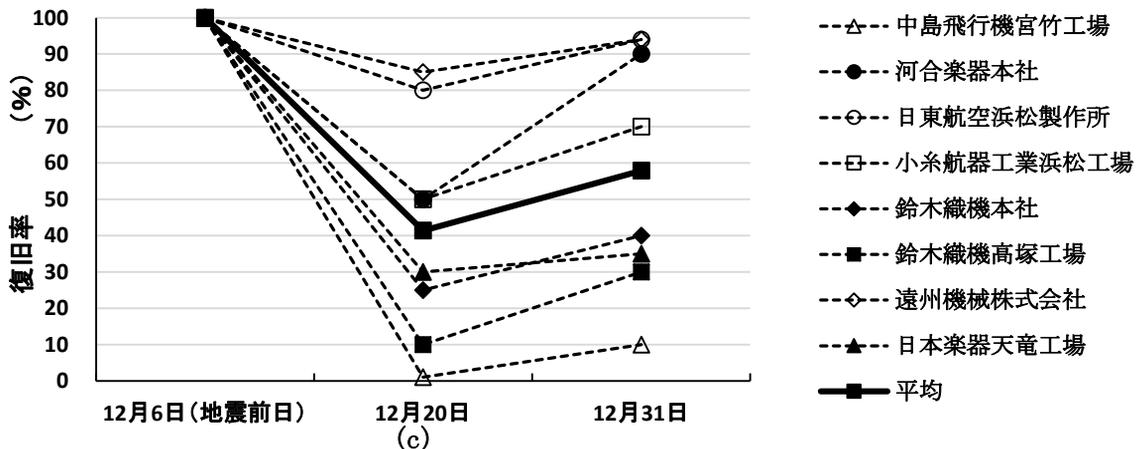
Fig.4 .Damage and restoration of Enshu Mechanical Corporation (present Enshu Ltd.). (Photo Credit: Enshu Ltd.). (a)The fraise assembly plant of Enshu Mechanical Corporation.This factory was once a loom assembly plant,but changed to a fraise assembly plant as a munitions factory. (b)The bullet processing plant. (c)The foundry plant. (d)100 tons of press machine at the upper right. (e)The bullet factory near the front gate. (f) The foundry plant. (g)The office in a bullet factory. (h)The demolition work of a fraise assembly factory.The completed turnery is lined.



(a)

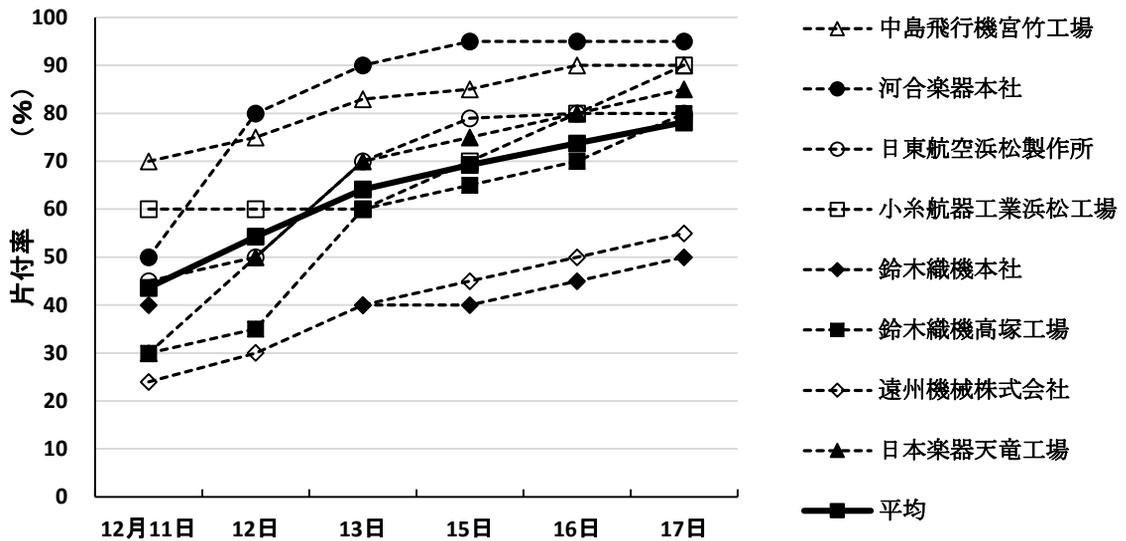


(b)

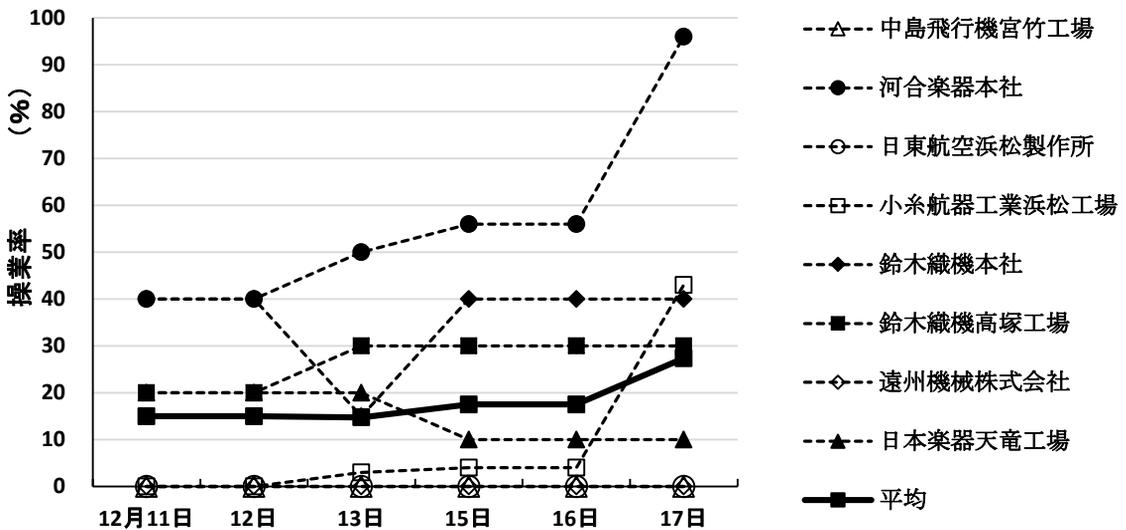


(c)

図5. 地震発生後の出勤率と生産率, 復旧率の推移. (a)出勤率. (b)生産率. (c)復旧率
 Fig.5. Change in the attendance rate, production rate and restored rate after earthquake.
 (a) Attendance rate. (b)Production rate. (c)Restored rate .



(a)



(b)

図6. 地震発生後の片付け率と操業率の推移. (a)片付け率. (b)操業率.
 Fig.6. Change in the cleaning rate and operation rate after earthquake.(a) Cleaning rate.
 (b) Operation rate .